

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	情報化対策特別委員会
委員名	早坂憂, 加川康子, 小玉仁志, 山田匡身, 法華栄喜, 石田政博, 中鉢和三郎, 横山悦子
日 時	令和7年11月4日（火）から令和7年11月5日（水）
視 察 先	1. 埼玉県狭山市 2. 栃木県日光市
出席者 (説明者)	1. 狹山市議会議長 内藤光雄, 広報委員会委員長 菅野淳, 広報委員会副委員長 丸橋ユキ, 議会事務局次長 中島由夏, 議会事務局 千葉, 議会事務局 戸口 2. 日光市議会議長 斎藤文明, 副議長・広報広聴委員会委員長 筒井巖, 議会デジタル化推進検討班班長・広報広聴委員会委員 大島浩, 議会事務局議事課 斎藤, 議会事務局議事課 佐藤

2. 視察内容

視察項目	1. 市議会だよりのリニューアルについて, 市議会だよりの編集について 2. 議会広報紙について, 公式SNSを活用した広報について
視察内容	1. 市議会だよりのリニューアルについて, 市議会だよりの編集について より市民に議会への関心を持ってもらうために, 大崎市でも議会の広報力向上は課題である。このたび, 議会だよりの刷新を図った狭山市の議会広報の取組について調査を実施し, 理解を深めるものである。
【質疑応答】	<p>■事前質問への回答</p> <p>問: リニューアルの目的と背景を伺う。</p> <p>答: 目的 - 今以上に多くの市民に关心を持って読んでもらうため。</p> <p>背景 - 議長からの委員会への諮詢答申, アンケート結果, 自治会連合会からの要望。</p> <p>問: 紙面デザインや表現方法を見直す際, 特に意識した点は。</p> <p>答: 見やすくするために, フォント, 文字のポイントを変更した。</p> <p>また, 読みやすくするために, 横書きに統一し, 紙面内の語句も記者ハンドブックを基に統一した。</p> <p>問: 市民協働推進条例との関係による, 議会だよりの位置づけは。</p> <p>答: 今のところは特にない。</p> <p>問: 編集方針を決める際, 市民の意見やアンケート結果などの反映方法は。</p> <p>答: 議会広報の現状把握と今後の改善等に向けて活用している。</p> <p>問: 若年層や子育て世代など, 多様な市民層への届け方で意識している点は。</p>

答：アンケート結果を基に各会派で考察を行った。（より多くの人に届くように、見やすさ、分かりやすさ、見出しも重視。令和7年5月号からリニューアル）
問：リニューアル後の市民からの反応は。
答：関係者からは読みやすくなったとの意見がある。市民向けの聴取は行っていないため、把握していないが、リニューアルを一つのイベントと捉え、アピールポイントとして利用することが重要である。
問：今後、市民と協働しながら発展させたい取組は。
答：広報委員会の中で検討したい。（具体的には市民の声や議会モニター制度など）
問：編集委員会の構成（人数、会派バランス・任期など）を伺う。
答：委員8名、事務局3名、任期は2年で再任が可能である。
問：編集会議の開催頻度と紙面内容の決定方法は。
答：各号2回行っており、ベースは事務局で提案している。
問：編集方針の決定で重視している視点や基準を伺う。
答：記事を整理して簡潔に掲載すること。
問：事務局職員や外部事業者との役割分担、連携体制について伺う。
答：事業者がデザインと印刷製本、委員会と事務局が原稿を作成するスタイルである。
問：編集過程で特に苦労している点、また改善のために工夫していることは。
答：表紙の写真の選定について、委員会でその場しのぎで掲載していたが、委員の負担軽減のため、全議員からの募集による選定へと変更した。
問：議会だよりは市民に読まれていると思うか、またその根拠について伺う。
答：紙面のリニューアルに伴い、配布方法も変更したため、手に取っていただく機会は増えていると思うが、聴取などは行っていないため、把握はできていない。議会だよりとともに、今後SNSの活用も検討し、広報の充実に努めたい。
問：議会だよりの配布方法について伺う。
答：自治会が配布を行う。非自治会員には配布されない。令和7年5月号から広報さやまへの挟み込みになったことで、駅や郵便局にも置けるようになった。
問：一般質問の写真やイラストは必ず1人1枚入れるものなのか、またその経緯を伺う。
答：読みやすさを重視した場合、写真やイラストがあったほうが親しみやすく、読みやすいと判断したため、必ず入れている。

【意見交換・質疑応答】

菅野委員長より

問：大崎市はどのような配布方法なのか。
答：行政区長が担当範囲に全戸配布。（地域によって戸数にばらつきがあり、さらに各親交会長により分配している所もある。）

問：大崎市議会だよりのトピックスは、まさに見出しになっていてよいので、参考にしたい。どのように作成しているのか。

答：各号ごとに担当を決め、委員が作成を行っている。特に、質疑が多かった議案や市民の関心が強いであろう議案をピックアップしている。

2. 議会広報紙について、公式SNSを活用した広報について

(1) 目的

日光市議会における議会広報紙の紙面づくりの取組及び公式SNSの活用状況について調査するため実施した。

(2) 取組概要

日光市議会では、議会活動をよりわかりやすく市民へ届けるため、広報紙の読みやすさ向上、SNSや動画を活用した情報発信に取り組んでいた。

広報紙ではフルカラー化や表紙公募、質問内容の要点整理、二次元コード掲載など、市民が手に取りやすく理解しやすい紙面づくりが行われていた。また、SNSでは、一般質問後の短尺動画による発信やYouTubeとの連携を行い、情報へのアクセスを促す仕組みが整えられていた。

本視察では、これらのデジタル発信と紙媒体それぞれの工夫について説明を受け、大崎市議会の広報・広聴活動の充実に向けた参考とした。

(3) 観察内容

①議会広報紙について

1) 取組の背景

日光市議会では、議会広報紙の視認性向上と、市民が手に取りやすい紙面づくりを目的として、紙面構成の見直しを段階的に進めていた。従来の課題としていた「読みづらさ」「興味を持たれにくい構成」を改善する点を重視していた。

2) 主な取組内容

- ・フルカラー化の実施（令和3年7月号から）

予算を増やす実施できるよう、ページ数を調整して対応した。

- ・表紙写真の公募制度

市内在住・在勤・在学者から募集し、市民が広報紙に関わるきっかけとして活用。

- ・一般質問ページの工夫

質問内容を「ここがポイント」として要点化し、読みやすさを確保。

- ・YouTubeとの連携

一般質問動画への二次元コードを掲載し、紙面から動画へ誘導する仕組みを整備。

3) 特徴

紙媒体における読みやすさと視覚的工夫に重点を置き、市民参加（表紙公募）や動画への導線など、デジタルと紙の併用により情報を届けやすくする取組が行われていた。

②公式SNSを活用した広報について

1) 取組の背景

議会活動をより多くの市民に伝えるため、紙媒体だけでは届かない層にも情報を届けることを目的に、SNSや動画による発信の強化を図っていた。特に、若年層やSNS利用者への接点づくりが重視されていた。

2) 主な取組内容

・X（旧Twitter）の活用

議会としてのSNSはXを中心に運用し、タイムリーな報告や動画投稿に使用していた。

・中づり広告風デザインの導入

ポップで目に留まりやすいよう、一般質問紹介に中づり広告を模したデザインを採用。

※掲載前には議員本人へ内容確認を行い、堅くなりすぎない表現に調整している。

・一般質問“振り返り動画”

質問終了後すぐにタブレットで撮影し、20～40秒の短尺動画として投稿。

編集は行わず、議員本人・班長・職員でその場で確認し公開していた。

・動画とYouTubeの連携

振り返り動画を入口として、YouTubeの本編録画へ誘導する導線を確保。

・機材・コスト面の工夫

新たな中継用PCは導入せず、必要だったのはソフト購入のみ。

・LINEの活用状況

市としては運用しているが、議会としては活用していない。

3) 特徴

SNSを入り口とし、短尺動画で“議員本人が語る”内容を届けることで市民の興味を引き、詳細情報（YouTube本編）へつなげる仕組みが確立されていた。編集なしで投稿できる運用体制により、負担を抑えて継続可能な広報手法となっていた。質問直後に撮影しているため、議員本人の熱意も伝わる内容となっている。

（3）質疑応答

	<p>問：議会広報紙をフルカラー化した際、経費は増えなかったのか。</p> <p>答：増えていない。ページ数を調整し、現行予算の範囲内で対応した。</p> <p>問：中づり広告風の紹介部分は、掲載前に議員の確認を行っているか。</p> <p>答：行っている。ただし、紙面が堅くなりすぎないよう、表現を柔らかく調整することもある。</p> <p>問：リアルな議会報告会や対話の場は実施しているか。</p> <p>答：実施している。議員定数削減の検討時に自治会長連合との意見交換を行っているほか、中学生への議会報告会も実施し、地域課題の把握に努めている。</p> <p>問：日光市の公式LINEは議会でも活用しているか。</p> <p>答：活用していない。議会としてのSNSはXを中心に運用している。</p> <p>問：YouTube配信に切り替えた際、過去5年分の動画データはどうしたか。</p> <p>答：業務委託していた事業者から提供を受けた。</p> <p>問：YouTube配信にあたり、新たな中継用PCは導入したか。</p> <p>答：導入していない。新たに準備したものは、ソフト購入のみである。</p> <p>問：一般質問後の振り返り動画はどのように運用しているか。</p> <p>答：質問終了後すぐにタブレットで撮影し、その場で議員本人・班長・職員で内容確認を行い、編集せず投稿している。</p> <p>問：市民が一般質問動画にアクセスしやすいよう、どのような工夫をしているか。</p> <p>答：振り返り動画を入り口として投稿し、興味を持った市民がYouTube動画へ移動できるよう導線を設計している。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>1. 市議会だよりのリニューアルについて、市議会だよりの編集について</p> <p>どこの議会も、市民にもっと関心を持ってもらいたいと考え、紙面・内容・表紙などの工夫を行っている。狭山市では読みやすさのために、フォント、文字ポイントのほかに横書きに統一しており、数字なども統一され、読みやすくなっていた。</p> <p>また、自治会加入者を対象に配布を行っているが、クレームはないとのことである。大崎市でも経費を考慮して配布部数の検討も必要と考える。(クレームがない=関心がないのかかもしれない。)</p> <p>SNSについては、議会広報紙と並行して活用を検討していくことである。今後は、紙面のみならずWebも含めた広報が守備範囲と認識し、市民理解の向上を図るべく、メディアミックスの観点を持ち取り組むことが一つの重要な形であると考える。</p> <p>2. 議会広報紙について、公式SNSを活用した広報について</p> <p>日光市議会の広報紙は、紙面構成の工夫とカラー化により視認性を高め、手に取ってもらうための仕掛けが随所に見られた。特に、表紙写真の公募は、市民が広報紙に関心を持つきっかけをつくるものであり、紙媒体の強みを生かした工夫</p>

といえる。また、一般質問ページを要点化し、動画への二次元コードを設置することで、広報紙を入り口として、より詳細な情報へ誘導する役割が明確に整理されていた。紙と動画を連動させることで、市民が議会情報にアクセスしやすい環境が整えられている点が印象的である。これらの取組は、紙媒体の限界を補いつつ、市政、議会に関する情報の理解促進に寄与すると考える。

次に、SNSの活用では、一般質問の中づり広告風の案内や短尺動画の積極的な導入が特徴的であった。一般質問直後に振り返り動画を撮影し、編集を行わずその場で確認して公開する運用は、負担を抑えながら継続性を確保する工夫といえる。また、SNSを入り口として傍聴やYouTubeのライブ配信、アーカイブへ誘導する流れは、紙媒体とは異なる層、特に若年層への接点づくりとして有効であると感じられた。議員本人が分かりやすく語る形式は、内容の理解だけでなく、議会に対する心理的な距離を縮める効果も期待できる。機材を最小限にし、運用面で工夫を重ねることで、負担を増やさずに情報発信の幅を広げていた点が参考となった。

日光市議会の取組全体を通して、「どのようにすれば市民に届くか」を起点とした発想が一貫している点が共通していた。紙媒体では紙面の分かりやすさや見た目の工夫、SNSでは、一般質問の中づり広告風の案内や短尺動画による関心喚起と情報導線の設計など、それぞれの媒体の特性を生かしながら、複数の入り口を市民に提供していた。

これらの取組から、1つの手法に依存せず、媒体を組み合わせて発信すること、市民が情報にたどり着きやすい流れをつくることが重要であり、大崎市議会においても、紙媒体とデジタル媒体の特性を踏まえた組み合わせにより、議会情報の伝わり方を高めるよう取り組めるのではないかと考える。

以上